

2017年度 アジア文化研究専門分野・アジア文化副専攻卒業論文・卒業研究提出予定者へ

2017年3月
外国語学部アジア文化副専攻

1. 卒業論文・卒業研究の提出希望者は、必ず学事センターの履修登録期間中に「卒業論文・卒業研究Ⅰ」（春学期）および「卒業論文・卒業研究Ⅱ」（秋学期）をLoyola で登録すること。
2. 指導教員（原則として卒業論文・卒業研究を提出する年度に履修する演習の担当教員であり、演習を履修しつつ作成の指導を受ける）と事前によく相談すること。
3. アジア文化研究専門分野・アジア文化副専攻卒業論文・卒業研究作成届出用紙3 通に記入し、指導教員・所属学科長・アジア文化副専攻主任にそれぞれ1 通ずつ提出する。用紙は添付ファイルを使用すること。提出期限は原則として4月28日17:00までだが、留学等の事情により提出が遅れた者については総合グローバル学部事務室（2-630）まで相談のこと。
4. 卒業論文・卒業研究は12月4日（月）～8日（金）17:00 までの定められた期間内にオリジナル1部を学事センター外国語学部窓口提出すること。
5. 卒業論文については、規格を縦長A4判横書き・左綴じとし、縦長A4の黒表紙をつける（黒表紙は2 号館地下1階丸善で購入する）。
原則としてワープロで書く。日本語を原則とするが指導教員と相談の上他の言語での執筆も可とする。長さの目安については日本語の場合、20,000字～40,000字（A4 判用紙1,200字詰で17～34枚）。英語（欧語）の場合、8,000語～12,000語とする。表紙および目次をつけること。
提出された論文は、製本してアジア文化研究所図書室に保管される。
製本代として500円を徴収する。
6. 卒業研究については、執筆物である場合には原則として規格等を卒業論文に準ずるものとする。他方、執筆物以外にも多様な形での研究成果を卒業研究として認めるが、内容と完成に要する知的努力において卒業論文と同等とみなせるものでなくてはならない。
卒業研究の具体的な内容については、指導教員とよく相談し、事前にアジア文化副専攻主任の了解を得ること。
卒業研究の提出物は、研究成果（物）とその成果（物）に対する解説資料などの文書化されたもの（400字詰め原稿用紙20枚程度またはA4 判用紙1,200字詰めで7枚）からなる。文書は日本語の場合、縦長A4判横書き・左綴じとする。添付の文書は原則としてワープロで書く。日本語を原則とするが指導教員と相談の上、他の言語での執筆も可とする。なお、研究成果を紙以外の媒体で提出する場合は上書きできないようにプロテクトした状態のもの（例:CD-ROMもしくはDVD等）を媒体とした上で、文書化した解説資料と媒体を袋に入れ、袋の表紙に提出票（学事センターにて配付）を貼付する形で提出すること。
提出された成果物および添付の文書は、可能な限り製本してアジア文化研究所図書室に保管される。図書館での保管が困難な成果物である場合、適宜、指導教員、アジア文化副専攻主任と相談の上で記録にとどめる方法を考慮する。
保管に必要な費用として、500円を最低限として実費を徴収する。
7. 履修要覧の「外国語学部説明」、およびアジア文化研究専門分野・アジア文化副専攻の「履修上の注意」も参照すること。また、アジア文化研究専門分野・アジア文化副専攻履修証明取得の要領についても同じく「履修上の注意」を熟読すること。
8. 提出後、誤字・脱字筆字句修正を施した卒業論文・卒業研究の最終版1 部を1月31日（水）までに総合グローバル学部提出すること。その際、執筆物については、電子ファイルも提出する。

アジア文化研究専門分野・アジア文化副専攻
卒業論文・卒業研究 作成届*

学 科 長 殿**
アジア文化研副専攻主任殿
指 導 教 員 殿

I. 題 名 _____

II. 要 旨 (卒業研究の場合には成果物の概要)

III. 指導教員 _____ 印

なお、期日までに論文ないし研究成果物を提出しない時は、卒業論文・卒業研究
6単位を取得し得ないことに異議ありません。

年 月 日

学生番号 _____

学 科

氏 名 _____ 印

住所〒 _____

電話番号 _____

E-mail _____

*卒業論文か卒業研究のうち該当しないものを消すこと。

**学科長・副専攻主任・指導教員それぞれに1部ずつ提出する。該当しないものを消すこと。

卒業論文執筆要領

1. 下記の要領に従うものとするが、指定のない事柄については学術上の慣用にかなう限り、一貫した作法で書かれていればよい。不明な点については指導教員に相談すること。
2. 句読点、引用・強調などの括弧には全角1文字分を使う。新しい段落（パラグラフ）の最初は、全角1文字分を空けること。

例)

1	.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

3. 引用は、引用文が短くて、原稿用紙の3行以内に納まる程度ならば括弧をつけて本文中に挿入する。引用文が長い場合は、本文との混同を避けるため、下記の例に示されているように本文との間を上下各半行ないし1行、また、左右の全角2文字分を引用文全体について空ける（インデント）。この際、引用文の前後に括弧はつけない。

例) (●が引用文)

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		●	●	。												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	。		

4. 注は、脚注、章末注もしくは論文末注とし、必要な注を簡潔につけるよう心がけること。
5. 引用文、資料、その他記述内容に関する出典を、下記6と7に従い明示すること。
6. 参考文献提示は、(イ)著者氏名、(ロ)表題、(ハ)出版社名、(ニ)発行年、(ホ)引用文の所在頁、の5項目が基本であり、それらを、注に示す方式（以下の7a）もしくは論文末の文献表に示す方式（以下の7b）のどちらか一方を採用して示す。

7a. 参考文献を注に示す方式

- 7a-1. 注において参考文献を示す方式では、本文中に上付き連番で注番号を示した上で、下記のようにして参考文献を提示する。

例) ○○○○⁽¹⁾

7a-2. 和書・和雑誌論文など

論文名は鉤括弧、単行本、論集名は二重鉤括弧でくくる。各文献に示す頁は引用箇所最初と最後であり、文献の全体を参照する場合には、雑誌論文の場合のみ論文の最初と最後の頁を示す。

3名以上の著（編）者による文献では、代表著（編）者名を書き、その他の著（編）者名は、「他」の略号を用いて省略する。

(1) 単行本

石井米雄『タイ近世史研究序説』岩波書店、1999年、5-12頁。

(2) 雑誌論文

田辺繁治「自己統治の技法—北タイのエイズ自助グループ」『上智アジア学』第17号、1999年、122-123頁。

(3) 論集所収論文

宇野昌樹「知られざる信仰—ドゥルーズ派に見る聖者崇拜と聖廟参詣」歴史学研究会編『巡礼と民衆信仰』地中海世界史第4巻、青木書店、1999年、299-308頁。

(4) 翻訳書

E. W. サイド『文化と帝国主義』大橋洋一訳、第1巻、みすず書房、1998年、36-38頁。

* 再出文献の注

(ア) 直前の注に掲出されている場合。ただし、章末注の場合は他の章で参照した文献については(イ)もしくは(ウ)にしたがう。

同上 (書)、〇〇頁。

同上 (論文)、〇〇頁。

(イ) いくつか前の注に掲出されている場合。著者名を加える。その文献が掲出されている注の番号を付けてもよい。

〇〇前掲書、〇〇頁 (注〇〇)。

〇〇前掲論文、〇〇頁 (注〇〇)。

(ウ) 同一著・筆者による文献が複数掲出されている場合。その特定書・文献の出版年を書き加える。

〇〇前掲書、〇〇〇〇年、〇〇頁 (注〇〇)。

〇〇前掲論文、〇〇〇〇年、〇〇頁 (注〇〇)。

7a-3. 外国書・外国雑誌論文

原則として日本語文献に準ずるが、単行本・論集については、出版地(都市名)を示す。単行本の標題(副題がある場合はそれも含めて)および雑誌名はイタリックとし、論文の表題は引用符(“ ”)の中に入れる。

3名以上の著(編)者による文献では、代表著(編)者名を書き、その他の著(編)者名は、et al.の略号を用いて省略する。

(1) 単行本

Cyril Veliath, *The Love Song*, London: Minerva Press, 1997, pp. 2-9.

(2) 論集

Augustus Norton (ed.), *Civil Society in the Middle East*, Leiden: Brill, 1995.

論文集の編者が、複数の場合は(eds.)の略号を用いる。

(3) 雑誌論文

Syed Hussein Alatas, “Intellectual Imperialism: Definition, Traits and Problems,” *Southeast Asian Journal of Social Science* vol. 28 no. 1, 2000, pp. 25-32.

(4) 論集所収論文

Frank S. J. Lynch, “Folk Catholicism in the Philippines,” in Mary Hollnsteiner et al. (eds.), *Society, Culture, and the Filipino*, Quezon City: Ateneo de Manila University Press, 1975, pp. 123-130.

* 再出文献の注

(ア) 直前の注に掲出されている場合

Ibid., p. 〇〇.

(イ) いくつか前の注に掲出されている場合、op. cit.を用い、著者名を加える。

〇〇, op. cit., p. 〇〇.

(ウ) 同一著者による文献が複数掲出されている場合、出版年もしくはその文献が掲出された注の番号を加える。

〇〇, op. cit. (yyyy) p. 〇〇.

〇〇, op. cit. (n. 〇〇), p. 〇〇.

7b. 論文末の文献表に参考文献を示す方式

7b-1. 論文末の文献表に参考文献を示す方式では、本文中に丸括弧、著者姓、発行年、引用頁を示した上で、下記のようにして参考文献を一覧にして提示する。

例) ○○○○○ (石井 1999: 18-27)

7b-2. 和書・和雑誌論文など

著者の姓の五十音順、同じ著者による文献については発行年順に配列する。翻訳著作の場合、欧米人などについて姓名順を通常とは逆にして提示することがあるのに注意する。

雑誌論文については、最初と最後の頁を示し、他は本文中で引用頁を示すので、文献表で頁数を示す必要はない。

論文名は鉤括弧、単行本、論集名は二重鉤括弧でくくる。各文献に示す頁は引用箇所最初と最後であり、文献の全体を参照する場合には、雑誌論文の場合のみ論文の最初と最後の頁を示す。

3名以上の著（編）者による文献では、代表著（編）者名を書き、その他の著（編）者名は、「他」の略号を用いて省略する。

(1) 単行本

石井米雄 1999 『タイ近世史研究序説』岩波書店。

(2) 雑誌論文

田辺繁治 1999 「自己統治の技法—北タイのエイズ自助グループ」『上智アジア学』第17号、119-145頁。

(3) 論集所収論文

宇野昌樹 1999 「知られざる信仰—ドゥルーズ派に見る聖者崇拜と聖廟参詣」歴史学研究会編『巡礼と民衆信仰』地中海世界史第4巻、青木書店。

(4) 翻訳書

サイード、E. W. 1998 『文化と帝国主義』大橋洋一訳、第1巻、みすず書房。

7b-3. 外国書・外国雑誌論文

原則として日本語文献に準ずるが、単行本・論集については、出版地（都市名）を示す。単行本の標題（副題がある場合はそれも含めて）および雑誌名はイタリックとし、論文の表題は引用符（“ ”）の中に入れる。欧米人などについて姓名順を通常とは逆にして提示することがあるのに注意する。

3名以上の著（編）者による文献では、代表著（編）者名を書き、その他の著（編）者名は、et al. の略号を用いて省略する。

(1) 単行本

Veliath, Cyril 1997 *The Love Song*, London: Minerva Press.

(2) 論集

Norton, Augustus (ed.) 1995 *Civil Society in the Middle East*, Leiden: Brill.

(3) 雑誌論文

Alatas, Syed Hussein 2000 “Intellectual Imperialism: Definition, Traits and Problems,” *Southeast Asian Journal of Social Science* vol. 28 no. 1 pp. 23-46.

(4) 論集所収論文

Lynch, Frank S. J. 1975 “Folk Catholicism in the Philippines,” in Mary Hollnsteiner et al. (eds.), *Society, Culture, and the Filipino*, Quezon City: Ateneo de Manila University Press.

■卒論の枚数の目安

日本語の場合 20,000 字～40,000 字 (A4 用紙 1,200 字詰め で 17～33 枚、)

英語 (欧語) 8,000 語～12,000 語

(アジア文化研究室会議 2007 年決定)

以上